

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

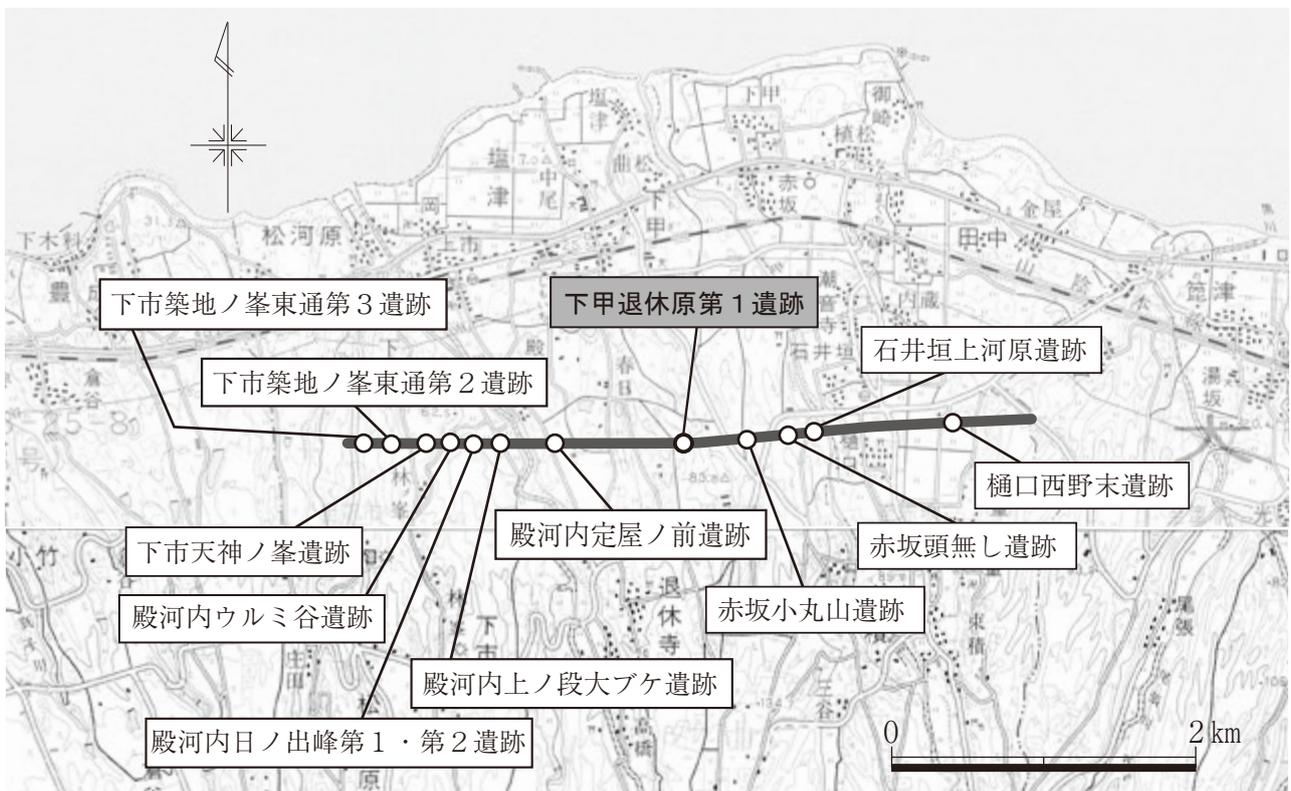
本調査は、平成24年度に一般国道9号中山名和道路の改築に伴い実施した、周知の埋蔵文化財包蔵地(以下、「遺跡」と記載)の本発掘調査である。本発掘調査を実施した遺跡は、下甲退休原第1遺跡(西伯郡大山町下甲)である。

山陰地方では、国道9号線の交通混雑緩和、荒天時の交通障害解消、災害時の緊急輸送の代替道路確保及び将来の国土幹線道路整備として、山陰自動車道の整備事業が進められている。鳥取県西部地域では、米子道路、名和淀江道路が自動車専用道路として一部供用されている。

このうち、大山町内における中山名和道路の計画地内及び隣接地には多数の遺跡が所在し、建設に先立ち計画地内の遺跡の有無、範囲、内容等を確認する必要性が生じた。このため、平成19年度から大山町教育委員会により、国庫補助事業として逐次試掘・確認調査が実施された。また、平成20～22年度には、鳥取県埋蔵文化財センターが確認調査を行った。

上記試掘・確認調査の結果を受け、文化財保護法に基づく手続きを踏まえ、平成21年度から鳥取県埋蔵文化財センターが調査主体となり、平成21年度は樋口西野末遺跡など2遺跡、平成22年度は殿河内定屋ノ前遺跡など4遺跡、平成23年度は石井垣上河原遺跡など4遺跡について本発掘調査を実施し、報告書が刊行された。

平成24年度は、赤坂小丸山遺跡、下甲退休原第1遺跡(本書)、殿河内上ノ段大ブケ遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡が本発掘調査の対象となった。



第1図 中山名和道路関係遺跡位置図

第2節 調査の方法と経過

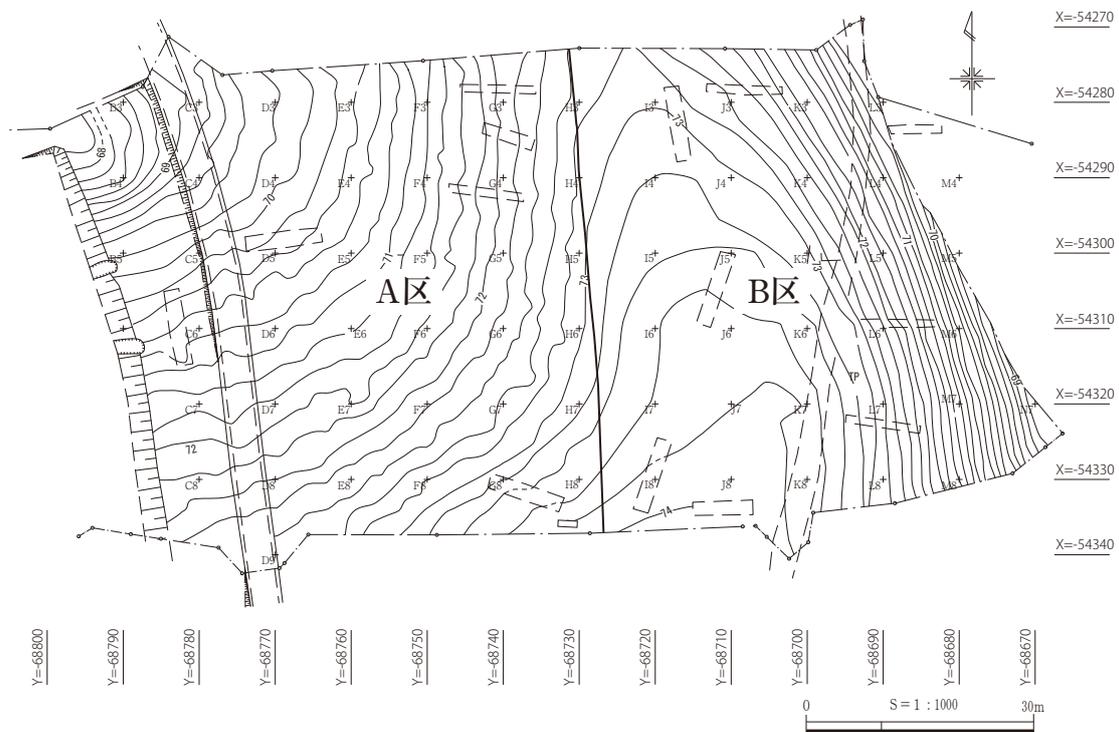
1 調査区の名称と調査方法

下甲退休原第1遺跡の調査前の状況は、山林である。調査に際しては、排土仮置き場所確保等の事由により、調査地を東西に二分割し、順に調査を実施することとなった。二分割した調査地の西半をA区、東半をB区と呼称し、A区、B区の順に調査を実施した(第2図)。A区、B区共に重機による表土剥ぎを行った後、世界測地系公共座標第V系に載るように調査区内に10m方眼の基準杭を設定し、グリッドを設けた。グリッド名は、東西南北軸交点の北東杭名を採用した。座標は、D5杭(X: -54300m、Y: -68770m)、J6杭(X: -54310m、Y: -68710m)などとなった。標高値は、国土交通省が設置した2級基準点H19-2-5の74.345mを使用した。

検出した遺構・遺物の記録には、光波トランシット及び自動レベルを用い、光波トランシットによる座標測量を行った。現地での写真撮影は35mm判、ブローニー(6×7)判により、地上又は写真用足場上から行った。また、調査前状況および調査後状況写真については、ラジコンヘリコプターからの空中写真撮影(ブローニー判カメラ使用)も併せて行った。遺物写真撮影は、4×5判カメラを用いた。いずれも白黒ネガフィルム並びにカラーポジフィルムを使用し、適宜デジタルカメラも使用した。

2. 調査の経過

調査は、3月3日に調査前航空写真撮影を実施し、3月6日から調査前地形測量に着手した。以後はA区について、3月19日～22日に重機による表土剥ぎを行い、4月26日から方眼測量を業者委託した。4月12日には発掘作業員オリエンテーションを行い、現場作業を開始した。その後、遺構検出作



第2図 調査地の区割

業を進め、測量作業等を経てA区は9月4日をもって全ての現地作業を終了した。

B区は、7月1・4・5日、8月30日に重機による表土剥ぎを行い、8月31日より本格的な遺構検出作業に着手した。9月4・5日には方眼測量を業者委託した。遺構検出作業を続け、11月22日には調査後航空写真撮影、以後は測量作業等を経て12月20日に現地におけるすべての作業を終了した。

調査の結果、旧石器が集中的に出土する箇所(ブロック)を3箇所、縄文時代の帰属が想定される落とし穴26基、炉様の使用が窺える礫を伴う土坑2基、弥生時代後期の竪穴建物跡1棟、土坑2基、時期不明の土坑1基を検出した。これらのうち、ブロックをなして検出された旧石器は、大きく二時期に亘る。出土層位は、ソフトローム相当層と、始良丹沢火山灰(AT)より下位に堆積する乳白色のローム層で、いずれも比較的良好な状況で検出された。特に後者は、出土層位から県内最古級に位置付けられる資料である。なお、10月29日には出土旧石器の評価について、岡山大学名誉教授稲田孝司氏に指導を受けた。

調査面積は、5,043㎡である。

平成25年度は、報告書作成を行い、3月に刊行した。

調査日誌抄

- 3月3日 調査前航空写真撮影
- 3月6日 調査前地形測量開始
- 3月19日 A区の重機による表土剥ぎ着手
- 4月12日 発掘作業員稼働開始
- 4月18日 本格的にA区の遺構検出作業を開始
- 6月22日 漸層層及びソフトローム相当層より黒曜石製の旧石器群が出土しはじめる
- 7月26日 上層旧石器出土状況写真撮影
- 8月24日 上層石器群及び周辺の精査、石器取り上げ作業が終了
- 8月28日 A区完掘全景写真撮影
- 8月30日 B区の重機による表土剥ぎが終了
- 8月31日 B区の遺構検出作業を開始
- 9月4日 A区の調査が終了
- 9月11日 竪穴住居跡(SI1)、土坑(SK31・32)検出状況写真撮影
- 9月21日 SK31・32で出土した弥生土器の取り上げ作業
- 10月29日 岡山大学名誉教授稲田孝司氏による出土旧石器に関する指導
- 11月3日 赤坂小丸山遺跡現地説明会において、遺物、写真パネル等を展示、解説
- 11月21日 始良丹沢火山灰(AT)よりも下位で石器群検出(ブロック1・2)
- 11月30日 ブロック1旧石器検出状況写真撮影
- 12月14日 ブロック2旧石器検出状況写真撮影
- 12月17日 ブロック1・2及び周辺の精査、石器取り上げ作業が終了
- 12月20日 全ての現地作業が終了



写真1 竪穴建物等調査風景



写真2 旧石器精査作業風景(ブロック1・2)



写真3 ブロック1旧石器検出状況

第3節 調査体制

下記の体制で発掘調査、報告書作成を行った。

鳥取県埋蔵文化財センター

平成24年度

所長	久保 穰二郎
次長	中村 靖浩(兼総務係長)
総務係	
副主幹	白岩 準市
主事	楠原 真衣
事務職員	大丸 真紀、岡村 好美
発掘事業室	
室長	山柘 雅美(兼調整係長)
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	池永 幸子
調査担当(大山調査事務所)	
副主幹	牧本 哲雄(統括責任者)
文化財主事	加藤 裕一(下甲退休原第1遺跡調査担当責任者)
	高橋 章司、門脇 隆志
発掘調査員	大谷 祐司
事務職員	國谷 亮介、鳥橋 あゆみ

平成25年度

所長	久保 穰二郎
次長	中村 靖浩
総務係	
係長	白岩 準市
主事	松浦 広美
事務職員	坂本 真奈美、山本 友以
発掘事業室	
室長	山柘 雅美(兼調整係長)
調整係	
発掘調査員	岩垣 命
事務職員	渡邊 ゆきえ
調査担当(大山調査事務所)	
係長	牧本 哲雄
文化財主事	高橋 章司、坂本 嘉和
事務職員	渡辺 晃

第2章 遺跡の立地

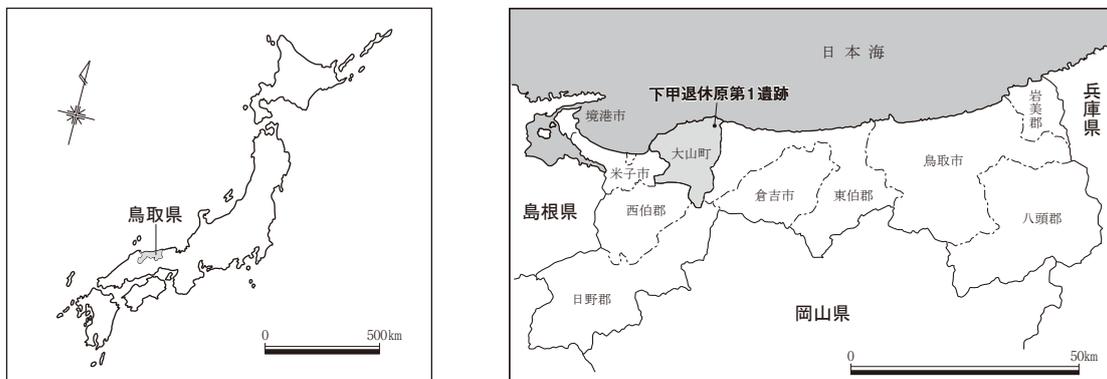
第1節 遺跡の立地

下甲退休原第1遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km²を測り、人口は17,415人(平成25年12月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小渓谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を發する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

日本海に面した地域では、御崎港、御来屋港を中心に沿岸漁業が盛んで、特にウニ・板ワカメは特産品になっている。町域北側から中部域は、農業を中心とした第1次産業が盛んである。低地では水田、台地上ではブロッコリー、スイカ、果樹などの栽培が盛んである。旧名和地域は台地上にあるという特性から、多数の溜め池が形成され、農業用水として利用されている。町域南側は、高原を利用した畜産が盛んであるとともに、国立公園にも指定され、大山寺・大神山神社などの著名な文化財もある。また、冬季には多くのスキー客で賑わっており、四季を通じて多くの観光客が訪れる県内でも屈指の観光地になっている。

下甲退休原第1遺跡は、大山町東部(旧中山町)、海岸線から約2.5kmの標高約74mを測る丘陵上に位置し、比較的広い尾根部を有するが、調査地の東西端側は谷地形へと降る斜面地を形成している。



第3図 遺跡位置図

第2節 歴史的環境

ここでは、下甲退休原第1遺跡が所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する琴浦町西部地域も含めた周辺遺跡の概要について述べる。

旧石器時代

発掘調査によって確認された鳥取県下の旧石器遺跡は、現在のところ5遺跡である。豊成叶林遺跡(122)、下甲退休原第1遺跡(138)では、AT火山灰下の白色ローム層中で玉髓製ナイフ形石器をはじめ玉髓の剥片、黒曜石製小石刃が原位置を保って出土している。また、殿河内ウルミ谷遺跡(135)では、黒曜石製小石刃・石核等が出土している。その他周辺では、梅田萱峯遺跡(88)でナイフ形石器が、豊成上金井谷峰遺跡(124)で台形石器が、本来の位置を遊離した状態で出土している。

縄文時代

当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、住吉第2遺跡(48)で有茎尖頭器、細工塚遺跡(31)で局部磨製石斧が出土している。早期では、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(46)、退休寺飛渡り遺跡(53)、上大山第1遺跡(22)、角塚遺跡(18)などで押型文土器が出土している。前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(33)、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。後期では、南原千軒遺跡(82)で石囲い炉をもつ竪穴住居跡が検出され、遺構外からは土偶が出土している。また、後期から晩期にかけての集落遺跡に殿河内上ノ段大ブケ遺跡(38)がある。竪穴住居跡、埋甕、祭祀に関わると考えられる石柱などを検出している。その他、落とし穴が八重第3遺跡(74)、小松谷遺跡(44)、下甲抜堤遺跡(45)、赤坂後口山遺跡(46)、下市築地峯東通第3遺跡(34)、小竹上鷹ノ尾遺跡(9)、殿河内定屋ノ前遺跡(39)、石井垣上河原遺跡(99)、赤坂頭無し遺跡(98)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

弥生時代

この地域では前期の遺構は少なく、樋口第1遺跡(62)、三谷遺跡(66)などで土器が出土している程度である。中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡、退休寺遺跡(52)、退休寺飛渡り遺跡、南原千軒遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡(39)、化粧川遺跡(90)などが挙げられる。倉谷荒田遺跡(11)では、中期後葉の竪穴住居跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では墓ノ上遺跡(91)、別所女夫岩峯遺跡(琴浦町別所)で木棺墓が見つかり、梅田萱峯遺跡(73)では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯墳丘墓)が検出された。現時点で県内では最古級の弥生墳丘墓である。後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、福留遺跡(84)、窺津乳母ヶ谷第2遺跡(80)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(79)、赤坂小丸山遺跡(97)、赤坂頭無し遺跡など丘陵上に集落が多数造営される。湯坂遺跡(81)では小型の墳丘墓を埋葬に伴って増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。終末期には門前第2遺跡より方形墳丘墓である門前1号墓を確認している。

古墳時代

古墳時代前期では、当該地域では石井垣上河原遺跡(141)の墳墓群がある。方形墳墓の他、山陰地方を中心に分布する四隅突出型の墳丘形態をもつ墳墓からなり、弥生時代から古墳時代にかけての過渡的様相を示す遺跡である。その他、前方後方墳の別所1号墳(笠取塚古墳、52m)(琴浦町別所)は、



- 1.大塚第3遺跡 2.大塚岩田遺跡 3.大塚塚根遺跡 4.大塚屋敷遺跡 5.富長城跡 6.古御堂遺跡 7.文殊領屋敷遺跡 8.荒田遺跡 9.南川遺跡 10.馬郡遺跡 11.名和公園裏古墳群 12.ハンボ塚古墳 13.長者原遺跡 14.坪田古墳群 15.富長山村古墳群 16.門前礎石群 17.門前古墳群 18.長綱時古墳群 19.原3号墳 20.茶畑山道遺跡 21.清原遺跡 22.中高遺跡 23.長田古墳群 24.平古墳群 25.徳楽方墳 26.源平山古墳群 27.宮内古墳群 28.茶畑古墳群 29.茶畑第2遺跡 30.東高田遺跡 31.高田26号墳 32.高田古墳群 33.高田原廃寺 34.高田第4遺跡 35.高田第10遺跡 36.上大山第1遺跡 37.蔵岡第1遺跡 38.梶原古墳群 39.角塚遺跡 40.筋原遺跡 41.筋原築跡 42.上寺谷たたら 43.東坪古墳群 44.豊成古墳群 45.豊成28号墳 46.長野城跡 47.浜ノ坂遺跡 48.龍光寺掘遺跡 49.倉谷横穴墓 50.松河原第1遺跡 51.松河原第2遺跡 52.岩屋堂古墳(岡古墳) 53.岡3号古墳 54.高塚古墳 55.曲松古墳群 56.築地峯東通遺跡 57.林之峯東通遺跡 58.天守山遺跡 59.下市築地ノ峯東通第3遺跡 60.下市築地ノ峯東通第2遺跡 61.要害ノ峯遺跡 62.築地ノ峯第3遺跡 63.細工塚遺跡 64.向畑遺跡 65.住吉第4遺跡 66.住吉第1遺跡 67.住吉第2遺跡 68.小松谷遺跡 69.林之峯遺跡 70.下甲坂堤遺跡 71.赤坂後口山遺跡 72.石井垣城跡 73.殿河内落合遺跡 74.退休寺遺跡 75.退休寺飛渡ノ遺跡 76.退休寺第1遺跡 77.二本松遺跡 78.羽田井遺跡 79.御崎古墳群 80.御崎第2遺跡 81.田中川上遺跡 82.笠津城跡 83.笠津古墳群 84.坂ノ上古墳群 85.梅田(栄田)古墳群 86.梅田六ツ塚遺跡 87.樋口第1遺跡(樋口遺跡) 88.梅田堂峯遺跡 89.梅田東前谷中峯遺跡 90.笠津乳母ノ谷第2遺跡 91.八重第3遺跡 92.樋口第2遺跡 93.八重第4遺跡 94.八重第1遺跡 95.岩屋平ル古墳 96.八重第2遺跡 97.三谷古墳群 98.三谷遺跡 99.東積古墳群 100.押平弘法堂遺跡 101.茶畑六反田遺跡 102.茶畑第1遺跡 103.押平尾無遺跡 104.古御堂笹尾山遺跡 105.古御堂金蔵ノ平遺跡 106.古御堂新林遺跡 107.門前第2遺跡 108.門前鎮守山城跡 109.門前上屋敷遺跡 110.名和飛田遺跡 111.名和乙ヶ谷遺跡 112.名和衣装谷遺跡 113.名和小谷遺跡 114.名和中畝遺跡 115.西坪岩屋谷遺跡 116.西坪岩屋谷古墳 117.東坪中林遺跡 118.小竹下宮尾遺跡 119.小竹上鷹ノ尾遺跡 120.倉谷西中田遺跡 121.倉谷荒田遺跡 122.豊成叶林遺跡 123.豊成上神原遺跡 124.豊成上金井谷峰遺跡 125.松河原上奥田第2遺跡 126.西坪上高尾原遺跡 127.西坪下馬駄ノ峰遺跡 128.名和下菰蒲谷遺跡 129.西坪三軒屋遺跡 130.下市天神ノ峯遺跡 131.殿河内完屋ノ前遺跡 132.樋口西野未遺跡 133.松河原上奥田第3遺跡 134.下市前築地遺跡 135.殿河内ウルミ谷遺跡 136.殿河内上ノ段大ヅケ遺跡 137.下甲退休原第1遺跡 138.赤坂小丸山遺跡 139.赤坂頭無し遺跡 140.石井垣上河原遺跡 141.殿河内日ノ出峰第1-第2遺跡 142.西坪中畝遺跡

第4図 周辺遺跡分布図

墳形の特徴から前期に築造された可能性がある。

中期の後半になると直径30mの大型円墳である高塚古墳(岡1号墳)(27)が造営される。朝顔形埴輪・形象埴輪が出土していることや、その墳丘の規模から当地域の首長墳と位置づけられる。中期から後期にかけては丘陵や段丘上に古墳や横穴墓が群を成して築造されるようになる。御崎古墳群(57)、別所古墳群(93)、篋津古墳群(69)、坂ノ上古墳群(70)、梅田(栄田)古墳群(71)、東積古墳群(67)、三谷古墳群(66)、豊成古墳群(2)などがある。御崎古墳群・別所古墳群・梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部にもつものがみられる。後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(25)、長野2号墳、岩屋平ル古墳(77)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡)(85)など切石積みの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域にかけての同一文化圏を形成している。この時代の集落は、依然として丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡、倉谷荒田遺跡、中期から後期の住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などがある。赤坂頭無

第2章 遺跡の立地

し遺跡は後期初頭に築かれた集落であり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡を数棟確認している。県下ではこの時期の集落遺跡の調査例が少なく、集落形態や動向を知る上で重要な遺跡である。そのほか、生産遺跡に窺津乳母ヶ谷第2遺跡があり、後期の鍛冶工房が検出されている。

古代

大山町東部(旧中山町域)は伯耆国の汗入郡に属する。『倭名類聚抄』によれば、束積・汗入・奈和・尺度・高住・新井の6郷が記載されるが、旧中山町域は束積・汗入の2郷が相当する。汗入郡衙の位置については明らかになっていない。当該地からやや離れるが、琴浦町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定されている。大山町東部では、小松谷遺跡(44)で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、八幡遺跡(83)で掘立柱建物跡が確認されている。樋口西野末遺跡(63)でも掘立柱建物跡を検出したほか、丹塗りの墨書土器や硯が出土しており、古代の役所に関連する施設があったと推測される。田中川上遺跡(60)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。栃原窯跡(19)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(21)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。細工塚遺跡(31)では大型の掘立柱建物群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力層の建物と想定されている。下市築地峯東通第2遺跡(34)では、須恵器窯3基、製鉄炉1基、炭窯多数が検出されている。大山町名和の名和下菖蒲谷遺跡では、時期は不明であるが古代山陰道推定路線上で道路状遺構を確認している。また、小竹下宮尾遺跡(8)でも道路状遺構が検出されている。当該地からやや離れるが、大山に築かれる大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。

中世

律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。琴浦町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。また、旧名和町域には、名和氏に関する旧跡が認められる。南原千軒遺跡、倉谷西中田遺跡(10)では、方形館跡や鍛冶関連遺構を検出したほか、鍛冶関連遺物が出土した。また、中世城館が各地に残り、窺津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(49)、天守山城跡(30)、條山城跡(86)、大仏山城跡(88)がある。また、長野城跡(3)・窺津城(楨城)跡(68)など日本海沿岸部にも砦跡が築かれている。特徴的な石造物として、琴浦町内の海岸部から船上山にかけて、鎌倉末期と推定される宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碕塔が7基確認されている。

【参考文献】

- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』
- 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
- 内藤正中・真田廣幸・日置糸左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社
- 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。